

## 令和5年5月1日に思う

「新鮮な住民の声」が届けられるでしょう。真摯に向き合いたいと思います。

このほど、向こう4年間の住民代表が決まりました。4月18日に告示された村議会議員選挙。定数8を超える届け出がなかったことから、20年ぶりの無投票当選となりました。

この秋には、大滝ダム竣工10周年の記念事業があり、これからの4年間には、来年は水源地の村づくりを決意して30年。令和8年には「川上宣言」を発して30年の節目を迎えます。文字通りさらに大事な4年間になると思います。

幸い、ほとんどの議員諸氏はここ数年、ともに「都市にはない豊かな暮らしを築くこと」に取り組んでいただき、切磋琢磨、議論を交わした間柄であり、村づくりの方向性はほぼ共有されているものと安堵しています。さらに今回、有史以来初めて女性議員が誕生しました。社会で「議会（政治）に女性目線が」とされている中、議論に幅が増すことをおおいに期待しています。

それでも、村づくりは道半ばであり、まだまだ村の課題も少なくありません。所信表明でも懸念を示した「農山村たたみ論」。昨今、一部の有識者の間で湧き上がっており油断は出来ません。しかしながら、宮口先生をはじめわが村のような地域を支援いただく先生方は頼もしい方ばかりであります。この地域の存在が「健全なる過疎」として、国の底力につながることを具現化することが必須であります。

新しく選ばれた住民代表と建設的な議論をしたいと思います。ご期待ください。